

# ありがとう あの時の「献血」



# 今、救える命がある

## かつて輸血で命をつないだ方の切実な想い

がんや白血病の治療、事故や出産時の大量出血などで、今、この瞬間にも輸血を必要とする人がいます。科学技術が進歩した今日でも、血液を人工的につくることはできません。日々善意で行われる献血によって、輸血医療が支えられています。「もしあの時、輸血ができなかったら…」こうした不安な想いを経験した3人の方にお話を伺いました。輸血を必要とする患者さんが安心して治療を受けられるよう、皆さまの献血へのご理解とご協力をお願いいたします。



## 今自分がいるのは、献血のおかげ。

熊耳宏介 (くまがみこうすけ) さん/35歳

17歳で急性リンパ性白血病に罹患。21歳で再発、約1年半ずつ入院治療を受ける。その間輸血は継続的に実施。患者同士の情報交換・啓発活動を行う「若年性がん患者団体STAND UP!」の事務局長。

### あの時命をつないでもらったことは ずっと忘れずに心に刻む

——まずはお1人ずつ、罹患されたご病気と、輸血を受けた経緯についてお聞かせください。  
**熊耳さん(以下敬称略)**：私は急性リンパ性白血病に罹患して、再発時を含め合計約3年治療のために入院しました。治療では悪い細胞(白血病細胞)を抗がん剤でたたくのですが、その作用は正常な細胞にも影響を与え、必要な血球や血小板なども減ってしまいます。その減った細胞が戻るのを待つ間、輸血に必要な成分を補うんです。特に再発時は減った細胞がなかなか戻らず、抗がん剤と輸血がセットになりました。

つまり、輸血がなければ治療できず、ここに私はいなかったでしょう。再発した時は治療率などから精神的にも参ってしまい、死を意識し続けた時期もありました。でもそれを乗り越え、治療を続けて今があります。献血をしてくれた人がいたことも含めて、自分は1人で生きているわけじゃないと実感します。  
**はるかさん(以下敬称略)**：私は大学4年生の時に慢性骨髄性白血病にかかっているとわかりました。通常多くても9000くらいの白血球が52万もあって、その他の血球や血小板などの全部の値が少なかったので輸血を受けました。輸血の経験はその1度ですが、退院して少し落ち着いた時に「すごくありがたかったなあ」と感じ

て、改めて自分にも何かできることはないか考えるようになりました。  
**福田さん(以下敬称略)**：私がかかった病気が急性リンパ性白血病の中でもフィラデルフィア染色体陽性タイプという病状の見通しが悪いもので、骨髄移植が望ましい状態でした。幸い兄の骨髄の型(HLA型)が適合し、提供を受けた造血幹細胞\*を移植して数カ月後に退院できました。移植する時には化学療法を行って自分の造血幹細胞を全て無くし、移植した健康な造血幹細胞が新たに血液を造り始める「生着」を待つのですが、その間、状態に合わせて大量の輸血を受けました。輸血は本当に治療の大きな支えです。約半年後には復学することができ、そ

\*骨髄の中で血液をつくる働きをしている細胞

# 勇気を持って、必要性を伝えたい。

はるかさん/30歳

22歳、大学4年生の時に慢性骨髄性白血病に罹患。症状を改善するために発病時に1度輸血を経験。現在も抗がん剤を服用し、治療を継続中。大学を卒業し、社会人生活6年目。

の後の人生も支えてもらいました。献血してくださった方に感謝しています。

### 元気な時には分からなかった血液の大切さ

——輸血を経験した時に感じたことや、それによって気付かされたことはありますか？  
**熊耳**：入院中に歩いて外出をして、途中で息苦しくなりフラフラになって戻ったことがありました。実は血中の「ヘモグロビン」が極端に減って、酸素が運ばれない状態になっていたんです。緊急輸血を受けたらすぐに元気になる実感があって、輸血には「栄養ドリンク」というか、元気の源というイメージがあります。  
**福田**：血液の数値と体調は確かにリンクしますよね。僕はインフルエンザの感染で病気が分かったんですが、白血球が減るとウイルスと戦えないから合併症が怖いんですよね…。僕が輸血で気付いたのは、血小板が黄色いことでした。  
**熊耳**：あの色はびっくりするよね。そうそう、血小板が少ないと、採血で針を刺しただけでも血が止まらなくなるんだよね…。  
**福田**：血液検査の数値を見ていたから、酸素を運ぶとか、ウイルスと戦うとか、血を止めるとかの血液の働きがよく分かりましたよね。

**はるか**：闘病ブログを通じて知った白血病患者さんの中に、骨髄移植をしたけれど生着せず、毎日輸血で命をつないでいる方がいました。「もし、明日輸血ができなかったら…」という不安を目にして、血液が足りなかった場合の怖さを痛感したんです。その後ある時、知人との会話で「献血って毎日募集する必要ないよね」と言われて、必要としている人がたくさんいると言ったのですが、もどかしくて…。  
**福田**：血液には有効期間があるとかいうことを知らない人は、多いでしょうね。  
**はるか**：高校時代に、頻繁に献血をしている友達がいっぱいでした。私もいつか行こうと思いつつ、行かないままで。輸血を受けると献血はできなくなるんですね。献血って、今この時に困っている人を直接的に助けられるもの。自分も健康な時にしておけば良かったとよく考えます。

### 献血をどう身近に感じて もらえるか、若者に伝えていきたい

——10~30代の献血者数が10年で30%ほど減少しています。それを聞いてどう思いますか？  
**熊耳**：自分の親に必要となれば、みんな献血をすると思うんです。私の友人もそうですが、自分の周りにそういう人がいると意識が変わる。

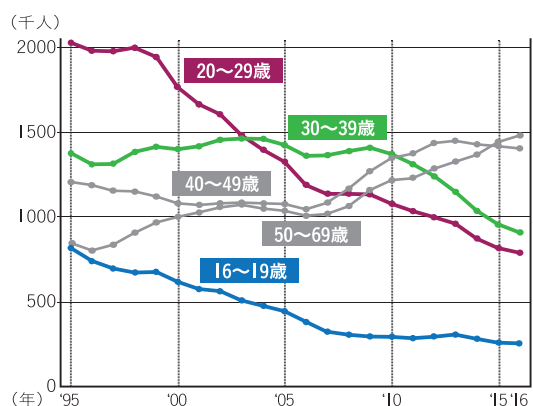
### 数字で見る献血

**3000人**  
輸血を受ける患者さんの1日当たりの平均人数。これだけの方が皆さまの献血を必要としています。

**16歳~69歳**  
献血が可能な年齢。献血の量や種類により区分されている他、服薬の有無や海外への渡航歴など、さまざまな基準に基づき、医師が総合的に判断してお願いしています。

**21日間/4日間**  
輸血用血液製剤の有効期間は、赤血球が21日間、血小板が4日間です。長期保存ができないため、継続的なご協力を必要としています。

### グラフで見る年代別献血者数の推移



# 血液の大切さ、ぜひ知ってほしい。



福田康介 (ふくだこうすけ) さん/27歳

大学入学後の5月に18歳で急性リンパ性白血病に罹患。同9月に兄からの提供を受けて骨髄移植。同年未退院。移植前の治療時と移植後にも大量の輸血を経験。

私も、人からいただいたから何かしたいと思うんですが、できなくなって気付くんですね。  
**福田**：献血に対する思いは、病気をしてももちろん相当変わりました。でも自分ではできないので、「献血をお願いします」という声を聞くと複雑な気持ちになります。  
**熊耳**：そうだね。「ありがとう、でもごめんなさい」という、ね…。

**はるか**：献血バスが会社に来ると、同僚に何気なく勧めたりはしていたのですが、重要性を感じながらも、これまで自分のことで精いっぱい、積極的に働きかけをしてなかったことに気付きました。自分の経験を説明して伝えるのは、勇気がいるので…。でも今回、多くの人に知ってほしいと思って。献血ってそんなに難しいことではなく、一番身近な社会貢献だと思うんです。

**福田**：献血をどう身近に感じてもらえるかということかもしれません。1回だけでも行ってもらえたら、それできつと変わる、感じてもらえることがあるんじゃないかと思えます。  
**熊耳**：若い人たちに訴えるのは若い人が良いと思います。ですから輸血経験の当事者として表に出て、感謝を込めながら、献血の大切さを伝えていきたいと思っています。

## 献血の輪を広げる 17文字のメッセージ!

### 第12回 赤十字・いのちと献血俳句コンテスト 受賞作品発表

**文部科学大臣賞**  
東京都 滝井 三  
金魚にも声かけて入る 祖母の家  
日本赤十字社 社長賞  
日本赤十字社 血液事業本部長賞  
千葉県 大木 理 四  
アイヌ食へママのけんげつまっている  
ヒカチエウ賞  
(大阪府 近藤 友 月)  
ひまわりを残していったおじいちゃん

**受賞作品(上位5作品・敬称略)**  
日本赤十字社は、昨年6月23日から約4カ月間にわたって第12回赤十字・いのちと献血俳句コンテストを開催しました。「いのちの尊さ・愛・友情・助け合い・感動、献血や赤十字の活動」などをテーマに俳句を募集。力作ぞろいの応募総数約23万句の中から上位15作品が、厚生労働大臣賞など各賞に選出されました。  
12月9日に行った表彰式では、受賞者に表彰状などを贈呈。審査員長の俳人・黛まどかさんは、「命や献血といったテーマは難しいかと思いましたが、身近な場面に感じ取って俳句にしていたことが印象的でした。皆さんの句を読んだ後は、温かい気持ちになり、温かさこそが、命のぬくもりであり、命の響きあいであると感じました」と講評し、笑顔で受賞者を祝福しました。



受賞作品はウェブサイト(www.ken-haiku2017.jp)で見ることが可能

## 平成30年「はたちの献血」キャンペーン

「はたちの献血」は、献血者が減少しがちな冬でも安定的に血液製剤を患者さんにお届けするため、成人を迎えるはたちの若者層を中心に、献血への理解と協力をお願いするキャンペーン。1975年から続いています。今年には女優・広瀬すずさんがキャンペーンキャラクターに就任し、2月28日まで献血の応援活動を行います。  
これを機に、「命のつながり」に思いをはせたという広瀬さんは、「10~20代の献血者が減っていると知りました。このままのペースで献血者が減っていき、輸血が必要となった時に困ってしまうのは自分たちかもしれません。他人事ではないと感じています。まずは献血について知ってもらうため、SNSも利用して同世代に発信していきたい」と力強く語ります。



キャンペーンキャラクター 広瀬すずさん

1998年6月19日生まれ。2012年、雑誌「セブンティーン」で専属モデルに。13年女優デビューし、以降、数多くの映画やテレビドラマ、CMなどで活躍中。

## いっしょに行こう。

キャンペーン期間中は、全国の献血会場で献血される10~20代を対象に、広瀬すずさんオリジナルクリアファイルを先着7万人にプレゼント。  
全国に148カ所ある献血ルームや血液センター(2017年4月現在)、学校やイベント会場に出動している献血バスなどで献血することができます。献血前には問診があるので、ご安心ください。  
献血ルーム・献血バスの検索はこちらから  
→ <http://www.jrc.or.jp/donation/>